

# 自己点検・評価報告書

松江工業高等専門学校

自己点検・評価委員会

## 目次

はじめに	1
第二期中期計画の内容	
1. 教育	
1-1 入学者の確保	2
1-2 教育課程の編成	4
1-3 優れた教員確保	9
1-4 教育の質の向上と改善のためのシステム	11
1-5 学生支援・生活支援	15
1-6 教育環境の整備・活用	17
2. 研究	18
3. 社会との連携	20
4. 国際交流	23
5. 管理・運営	25

## はじめに

本書は、高専機構の第二次中期計画に基づいて策定された松江高専の中期計画（平成21年4月～平成26年3月の5年間）について、達成状況と自己評価を示したものである。

自己評価は以下のS、A、B、Cの四段階で示した。

S：特に優れた実績を上げている。

A：中期計画を十分に履行し、中期目標に向かって着実に成果を上げている。

B：中期計画をほぼ履行し、中期目標に向かっておおむね成果を上げている。

C：中期計画を十分に履行しておらず、中期目標達成のために業務の改善が必要である。

1-1 入学者の確保	
[計画]	達成状況
本 科	
①中学校との関係を緊密にするとともに、マスコミを通じた積極的な広報を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校・高専連絡会を実施し、中学校教員と高専教員の情報交換を行った。</li> <li>・5地区（松江・出雲・浜田・安来・三次）で進路担当教諭を対象とした入試説明会を実施した。</li> <li>・島根県および広島県北部、鳥取県東部の中学校（約110校）を訪問し、進路担当教諭と面談して進学説明を行うと同時に、本校在校生（該当中学出身者）および本校志願者の状況についての情報交換を行った。</li> <li>・テレビCM（オープンキャンパス）を流し広報に努めた。</li> </ul>
②中学生が松江高専の学習内容を体験できるような進路説明会、学校説明会、オープンキャンパス、入試問題説明会等を充実させ、敬遠されがちな女子学生の志願者に対しても十分な情報提供ができる取り組みを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各中学校主催の進路説明会（約72校）へ教員を派遣した。</li> <li>・8月初旬に2日間オープンキャンパスを実施し、多くの中学生・保護者（約500名）参加があった。本校の概要説明およびミニ授業への参加、各学科のフリー見学、寮の見学を行った。参加者数は増加傾向にある。</li> <li>・中学生やその保護者を対象として、H23年度までは8地区（安来・松江・出雲・雲南・大田・浜田・益田・三次）での学校説明会と松江市での入試問題説明会を実施していたが、H24年度より3地区（松江・浜田・三次）での受検説明会に改めて、実施した。参加者数は増加傾向にある。</li> </ul>
③中学生やその保護者を対象とする「高専GUIDE」など広報資料を作成するとともに、PTAの学校訪問を可能な限り受け入れ保護者の理解を得る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来からの中学生向けパンフレット「高専GUIDE」をH25年度より「学校案内」冊子とし、内容をより充実させた。中学校主催の進路説明会や本校でのオープンキャンパス等を通じて配布し、松江高専の魅力発信に努力した。</li> <li>・松江高専のウェブサイト到学校行事や授業、実験実習、卒業研究などの様子を伝える動画を載せ、中学生・保護者の理解を深める一助とした。</li> <li>・中学校PTAの訪問は従来から1校のみ希望があり、毎年対応している。</li> </ul>
④ものづくりに関心と適性を有する者など松江高専の教育にふさわしい人材を的確に選抜できるように入試方法の見直しを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推薦入試における小論文問題の作成・検討を実施し、数理的な能力が的確にわかる問題作成に努めた。</li> <li>・学力入試における選抜方法の改善に向けて、入試成績と入学後の成績の関係について調査を行</li> </ul>

<p>⑤入学者の学力水準の維持に努める。</p>	<p>った。その結果、見直しの必要なしと判断し、具体的な選抜方法の改訂作業には入っていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者の学力水準維持のためには入学志願者数の維持が不可欠である。期間中、島根県内中学生が減少する状況においても、本校志願者数は微増傾向にある。</li> <li>・地域ネットワーク支援事業（神話の国シマネの縁結び（ENMSB）ネットワーク）を推進し、多くの参加者を得、入学志願者の母体となる理系に興味を持つ小学生層の増加に努めた。</li> <li>・夏休みや冬休みには、数多くの学校開放事業を開催した。例年多くの講座が抽選になるなど大好評である。</li> <li>・中学校や小学校へ出かけていく出張授業は、可能な授業テーマのリストを県下の小中学校へ送付するなど、積極的に取り組んでいる。</li> </ul>
<p>専攻科</p>	
<p>専攻科の定員（20名）以上の入学者確保に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産・建設システム工学専攻(定員:8名)と電子情報システム工学専攻(定員:12名)へあわせて定員の1.5倍の入学者が確保できている。</li> <li>・本校専攻科の特長であるエンジニアリング・デザイン教育において製作されたすべての作品を、しまね新技術セミナーに出展し、民間企業からの参加者と交流する機会を設けた。</li> </ul>

[評価]  
A

[評価内容と今後の課題]  
 さまざまな機会を設けて中学生、保護者等へ高専への入学を働きかけた結果、少子化が進む中であっても志願者数は増加傾向にあり、達成状況は十分であるといえる。学力水準の維持についても問題の改善等の対策がなされており、また長期的な視点から、広く一般の人々に対する科学振興策も継続して進められている。今後は、学習塾への働きかけや女子の入学者数増加をはかる取り組みなど、入学生確保のための一層の努力が求められる。

1-2 教育課程の編成	
〔計画〕	達成状況
<p>①産業構造の変化や技術の高度化などの時代の進展に即応した対応が求められる中、松江高専の地域性や特色、立地条件等を考慮し、個性ある多様な発展を目指し、自主的・自律的な改革を進める。このため、地域の実情や要請を常に調査し、必要性が生じた場合は新学科の設置や改組・再編・整備を適切に進める。また、島根県の技術者不足を補うために専攻科の整備・充実を行う。</p> <p>〔機械工学科〕</p> <p>機械工学技術者としての基礎知識を修得し、「創造的な技術・製品開発」の将来を担いうる人間性豊かで、機械を設計製作できる能力、機械の設計製作及び研究などにコンピュータ技術を応用できる能力を持つ人材の養成を目指す。在学中に機械設計技術者3級の資格相当の能力を有する人材の養成を目指す。</p> <p>〔電気工学科〕</p> <p>電気・電子・情報通信工学の基礎知識と技術を習得し、関連分野の工学問題を解決できる素養をもった技術者の養成を目指す。在学中に第3種電気主任技術者、あるいは電気通信主任技術者の資格相当の能力を有する人材の養成を目指す。</p> <p>〔電子制御工学科〕</p> <p>電気・電子、機械、情報・制御などの知識を幅広く吸収する意欲を養成する。得られた知識を統合し、メカトロニクス分野などへ応用できる能力、及びデータを解析し、自らの言葉として発表できる能力を養成する。さらに、ものづくりの体験を通して、主体的、積極的に行動できる創造性豊かな人間の養成を目指す。在学中に基本情報技術者、初級システムアドミニストレータの資格</p>	<p>中長期的な視点による学科の改組・再編・整備については、松江高専の所在地である島根県および松江市を中心とする地域の実情や行政から高専に対する要請、および県下の高校の再編成基本計画などの教育行政を勘案しながら、検討してきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・島根県内の中学校を入試説明のために訪問した際、学科構成の妥当性、将来必要な学科、入学者選抜方法、入学定員等について聞き取り調査を実施した。その結果は、概ね現状維持すべしとの意見が多かった。</li> <li>・電気工学科の名称変更については議論が固まり、現在申請中である。</li> <li>・各学科（機械工学科・電気工学科・電子制御工学科・情報工学科・環境・建設工学科）においては目標を達成するためのカリキュラムに基づいて教育・指導を実施した。</li> <li>・教育課程については全学科とも毎年小修正を行ってきている。カリキュラム改訂により学力不振者に対して新設された授業については、旧カリキュラムの学生も受講できるようにしている。</li> <li>・各学科では各種の資格に対して、学科の教育目標達成に有益なものに対しては特別学修単位として単位を認めることで自主的な学習を促している。現役学生から3名の技術士補が生まれた年度もあり、資格による単位取得者は増加傾向にある。</li> </ul>

<p>相当の能力を有する人材の養成を目指す。</p> <p>[情報工学科]</p> <p>コンピュータおよびネットワークを中心とした情報工学の基礎知識と技術を習得し、変化の激しいこの分野に柔軟に対応できる素養をもった技術者の育成を目指す。在学中に基本情報技術者の資格相当の能力を有する人材の養成を目指す。</p> <p>[環境・建設工学科]</p> <p>将来、地方において、人・物・情報が効率的に通い合い、安心して暮らすことができる地域環境の整備や維持管理を適切に行える建設技術者の育成を目指す。教育課程として、建設関連資格制度に適応したカリキュラムを整備・維持し、在学中に各種建設関連資格に相当する能力を有する人材の育成を目指す。</p>	
<p>②業界における人材需要や学生のニーズの変化等に対応した学科の大括り化やコース制の導入などについて検討を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学科の大括り化やコース制については目標期間中には導入に向けての具体的な作業を行っていない。</li> <li>• 現時点では電気工学科の名称変更を申請中である。</li> </ul>
<p>③各分野において基幹的な科目について必要な知識と技術の修得状況や英語力を把握し、教育課程の改善に役立てるために、学習到達度試験に参加し、試験結果の分析を行う。また、英語については、TOEICなどを積極的に活用し、技術者として必要とされる英語力を伸長させる。</p> <p>[人文科学科]</p> <p>国際化に対応できる有意な人材を育成することを目標として、バランスのとれた総合的な教養を身につけさせる。</p> <p>英語においては1～3年生に対して習熟度別クラス編成を行い、能力・希望に即した授業展開を行う。この他、月例の小テスト</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 下級生は一般の高校生も受験するベネッセ「スタディーサポートα」の英・数・国3教科の学習到達度試験を5月と1月に受けた。試験結果に関しては個人的に通知するとともに、業者から教員向けあるいは学生向けの説明会を開催した。</li> <li>• 3年生は高専機構本部主催の学習到達度試験（数学・物理）を受験し、毎年2科目とも全国平均を上回る成績であった。</li> <li>• 4年生以上に対してはTOEIC-IP試験を本校で実施し、成績が高得点の場合には、特別学修の単位として認めているが、受験者の平均点は少しずつ上昇傾向にある。</li> <li>• 新入生に対しては入学前に課題を与え、入学直後に課題試験を実施した。これにより合格から入学までの期間の学習不足を防ぐとともに、入学後の指導に生かすことができた。</li> </ul>

<p>ト、長期休業後の課題テストなどを課し、学習への取り組みを後押しする。</p> <p>国語においては、古文、現代文の読解をはじめ、漢字や論述の能力向上を積極的に進める。</p> <p>社会においては、多種多様な分野について学習することによって、高専卒業生の不足が指摘される広い視野の獲得を目指す。</p> <p>保健体育においては、自らの心と身体を見つめる必要性を説きながら、身体の鍛錬に取り組むと共に、級友との関わりをとおして社会性を育てる。</p> <p>[数理科学科]</p> <p>数学・理科は工学の基礎であるので、低学年において基礎的事項を全員に習得させる必要がある。</p> <p>数学では1～3年生に対し定期試験以外に年4回中間試験を実施し、学生のやる気を引き出すと共に習熟度別クラス編成の編成替えを行い、能力に合った授業を展開する。長期休業期間（夏休み、春休み）前に1～3年生に対し数学と物理の課題を与え、休業期間終了後に課題テストを実施することにより、長期休業期間中の学習の動機付けと復習を行わせる。</p> <p>化学では1，2年生に対し、年20回の計算・単位換算・基礎的知識ドリルを行い、基礎計算能力と基礎的事項の定着を図る。</p> <p>新入生に対して入学前に数学、理科の課題を与え、入学直後に試験を行いその結果を入学後の指導に生かす。</p>	<p>[人文科学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語は習熟度編成クラスの実施により英語を苦手とする層の学生の底上げができています。また、小テストや月例テストなどで、自習時間を確保するよう努めた。</li> <li>・国語は古文、現代文の読解をはじめ、漢字や論述の能力向上を積極的に進めた。実力テストの結果などから、古典に関する知識は向上している。</li> <li>・社会は低学年では地理・世界史・日本史・現代社会、高学年では法学・経済学・哲学・倫理学など、多種多様な分野を選択出来るようにし、高専生が弱いとされる一般教養をできるだけ高め、社会人としてより広い視野を持てるよう努めた。</li> <li>・保健体育は、年々運動技能が低下する学生の実態に合わせた運動課題提供を工夫しながら、身体の鍛錬に取り組むと共に、級友との関わりをとおして社会性を育てることに努めた。</li> </ul> <p>[数理科学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数学では1～3年生に対し定期試験以外に年4回中間試験を実施し、学生のやる気を引き出すと共に習熟度別クラス編成の編成替えを行い、能力に合った授業を展開した。</li> <li>・また、前学期に成績が不合格の学生を中心に授業（C科目）を開講し、復習、演習等を通して、数学の授業の理解度を深めた。</li> <li>・物理では、1年の後期に特別演習を実施し、基礎学力の定着を図った。</li> <li>・化学では1・2年生に対し、年20回の計算・単位換算基礎的知識ドリルを行い、基礎計算能力と基礎的事項の定着を図った。</li> </ul>
<p>④卒業生を含めた学生による適切な授業評価・学校評価を実施し、その結果を積極的に活用する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての科目に授業点検教員を配置し、シラバスにも明記している。各学期終了時には学生による授業アンケートを実施し、その結果を点検教員が点検し、授業改善に向けた科目担当教員宛のコメントを書く。</li> <li>・H23年度より学務情報システムに新しい機能が追加され、授業アンケートはWebで入</li> </ul>

	<p>力できるようになり、アンケートの処理業務が大幅に改善された。授業担当教員はコメントや今後の授業への取り組み、授業点検教員はコメントを入力する。授業アンケートは個人毎にまとめ、学内の教職員用のサーバで公開している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本科卒業時及び専攻科修了時に、学校生活全般にわたる「卒業生・修了生教育改善アンケート」、「満足度アンケート」、「成績評価に関するアンケート」を実施している。この結果を自己点検・評価委員会で分析し、改善点の把握に努めている。</li> <li>・H23年度には本科4年から専攻科2年生までの4年間の教育プログラム「システム技術」がJABEE（日本技術者教育認定機構）の継続審査を受審し、継続認定された。これにより、「システム技術」教育プログラムは社会の要求水準を満たしており、国際的な同等性を持つ認定基準を満たしていることが認められた。</li> <li>・H24年度には過去の本科卒業生・専攻科修了生に対するアンケート調査及び本科卒業生・専攻科修了生を採用した企業に対するアンケート調査を実施した。松江高専の教育に関して、即座に対処すべき問題点の指摘は見られなかった。</li> <li>・H25年度には「高等専門学校機関別認証評価」を受審した。これは、高等専門学校の教育研究水準の向上に資するため、教育研究、組織運営及び施設設備の総合的な状況に関し、7年以内ごとに文部科学大臣が認証する評価機関（認証評価機関）の実施する評価を受けることが義務付けられている。</li> </ul>
<p>⑤スポーツなどの全国的な競技会やロボットコンテストなどの全国的なコンテストに積極的に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国地区高専体育大会を勝ち抜いて、毎年多くのチームや個人が全国大会に進出した。特にバスケットボール、バレーボール、ソフトテニスを中心として全国大会でも優勝や準優勝という輝かしい成果を上げている。</li> <li>・ロボットコンテストは H24 まで 9 年連続で全国大会出場。プログラミングコンテストでも例年上位に入る活躍をした。</li> <li>・英語プレゼンテーションコンテストでも優勝や準優勝を飾っている。</li> </ul>
<p>⑥ボランティア活動などの社会奉仕体験活動や自然体験活動などの活動を推進する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校一斉に清掃活動を行うクリーンデーでは、学校及び周辺地域の清掃を行っている。</li> </ul>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松江市内の公民館で行われる各種イベント(ペットボトル大会, 竹いかだづくりetc.)へ, 社会奉仕部や理科部を中心に多くの学生が協力した。</li> <li>・地域ボランティアとして, 学生会・ソフトテニス部, その他ボランティア学生と学生会教職員が松江市立生馬小学校グラウンドの草取りを実施している。</li> <li>・「第5回ふるさと清掃運動会」協賛して, 生馬地区の清掃活動(クリーンまつえ)に高野連野球部員が参加している。</li> <li>・松江市生馬公民館で開催される地域の文化祭「名尾が丘まつり」に学生会が参加し, 模擬店の運営等協力している。</li> </ul>
--	---

**[評価]**  
A

**[評価内容と今後の課題]**  
各学科における教育内容の改善や, 英語力向上の取り組み, 卒業生評価の活用, スポーツ・ボランティア活動等の充実, 多岐にわたる活動により, 達成状況は十分であるといえる。現在の5学科体制と入学時に学科を決める仕組みについては地域からの支持を受けているが, 将来的にはさらなる検討が必要になると思われる。なお, 電気工学科は学科の実情に合わせた名称変更を申請中である。

1-3. 優れた教員の確保																																																							
[計画]	達成状況																																																						
<p>①多様な背景を持つ教員組織とするため、公募制の導入などにより、教授及び准教授については、採用された学校以外の高等専門学校や大学、高等学校、民間企業、研究機関などにおいて過去に勤務した経験を持つ者、又は1年以上の長期にわたって海外で研究や経済協力に従事した経験を持つ者が、全体として60%を下回らないように努める。</p>	<p>・教員採用にあたっては、現在、完全公募制としており本校ウェブサイトや研究者人材データベース等を利用して広く公表した。</p> <p>・公募の結果、企業在籍者、中学校教員、高校・大学の非常勤講師という様々な経歴の方から応募があり、その中から採用者を決定した。</p> <p>採用実績</p> <table border="1" data-bbox="981 528 2047 794"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>人文科学科</th> <th>数理学科</th> <th>機械工学科</th> <th>電気工学科</th> <th>電子制御工学科</th> <th>情報工学科</th> <th>環境・建設工学科</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>21</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>22</td> <td>1</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>23</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>24</td> <td><i>1</i></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td><i>1</i></td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>25</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 斜体は女性。(平成24年度 人文科学科 1名、情報工学科 1名)  ※ 有期雇用教員2名を含む。(平成23年度 電気工学科 1名、平成24年度 人文科学科 1名)</p>	年度	人文科学科	数理学科	機械工学科	電気工学科	電子制御工学科	情報工学科	環境・建設工学科	計	21		1			1	2		4	22	1	2						3	23	1	1		1			1	4	24	<i>1</i>		1		1	<i>1</i>		4	25		1		1			2	4
年度	人文科学科	数理学科	機械工学科	電気工学科	電子制御工学科	情報工学科	環境・建設工学科	計																																															
21		1			1	2		4																																															
22	1	2						3																																															
23	1	1		1			1	4																																															
24	<i>1</i>		1		1	<i>1</i>		4																																															
25		1		1			2	4																																															
<p>②教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させるために、採用された学校以外の高等専門学校などに1年以上の長期にわたって勤務し、またもとの勤務校に戻ることでできる人事制度を活用する。</p>	<p>・高専間人事交流制度を利用して教員派遣を実施した。</p>																																																						
<p>③専門科目（理系の一般科目を含む。以下同じ。）については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、理系以外の一般科目については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を採用する。この要件に合致する者を専門科目担当の教員については全体として70%、理系以外の一般</p>	<p>・計画通り維持することができた。</p>																																																						

<p>科目担当の教員については全体として80%を下回らないようにする。</p>	
<p>④女性教員の比率向上を図るための制度を定め、働きやすい職場環境の整備に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員公募要項に「女性を優遇する」ことを明記した。</li> <li>・平成24年度は、育児休業中の女性教員（人文科学科）の替わりの教員として任期付き教員1名の公募を実施、9月1日付で女性教員を採用した。</li> </ul>
<p>⑤中期目標の期間中に、FD/SD委員会を中心に教職員の能力向上を目的とした研修を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成22年度は、人権委員会とコンプライアンス委員会共催で、全教職員を対象とした「パワハラとアカハラ」に関する講演会を行った。</li> <li>・平成23年度は、「コミュニケーションスキルを身に付けさせるための教授法」についての講演会を開催した。</li> <li>・平成24年度は、小柳晴生元香川大学保健管理センター所長による「私たちは何に疲れているのか～心のバランスを崩さないために～」と題する講演会を開催した。</li> </ul>
<p>⑥文部科学省の制度や外部資金を活用して、長期短期を問わず国内外の大学等で研究・研修する機会に職員を積極的に参加させるとともに、教員の国際学会への参加も促進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年度機構在外研究員に数理科学科が申請して認められ、半年間、カナダに教員を派遣した。</li> <li>・平成23年度、夏休み期間中に（株）東京エレクトロンFEへ教員を派遣し企業経験を積む機会とした。</li> <li>・国際学会へは毎年度約30件の参加があった。</li> </ul>

[評価]  
A

[評価内容と今後の課題]  
全体的には達成状況はほぼ十分であるといえるが、将来を見越した女性教員の比率向上・職場環境の整備および高専間交流での受入教員数向上等については、今後、さらなる改善が必要と考える。

1-4. 教育の質の向上及び改善のためのシステム	
[計画]	達成状況
<p>①教員の教育力向上およびカウンセリング能力向上のための研修を実施する。技術職員の能力向上のために、技術職員を企業に派遣する。また、各種講習会に参加させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FD/SD委員会が中心となり、全教職員を対象とした研修（講演会）を毎年9月に実施した。講演内容は、H22「佐世保高専における特別支援の取組」、H23「伝わる話し方聞き方教授法」、H24「私たちは何に疲れているのか～心のバランスを崩さないために～」、H25「我がエンジニア人生「旅人」」などで、様々な視点から教育を振り返り、教育力向上を目指している。</li> <li>・学生相談室が中心となり、主に教員を対象として精神科医による講演会も毎年実施した。</li> <li>・中国地区8高専の連携プロジェクト「発達障害に関わる特別支援教育体制の整備」を本校が中心となって実施し、教員の質の向上にも大いに資することができた。</li> <li>・技術職員を毎年1名、企業へ研修（8月～9月の長期間）に派遣した。</li> <li>・高専機構主催の講習会を中心に学外の様々な研修へ教職員を多数派遣した。</li> </ul>
<p>②実践的技術者養成の観点から、在学中の資格取得を推進するとともに、日本技術者教育認定機構（JABEE）によるプログラム認定を通じて教育の質の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格取得により単位を認定する「特別学修単位」制度を設けている。認定の対象となる資格などについては、全学生へ配布する「学生ガイドブック」や学内ウェブサイトを利用して周知し、有益な資格の取得を奨励した。</li> <li>・TOEICや英語検定試験・漢字検定試験は学内で受験できるよう便宜を図っている。</li> <li>・JABEE審査でも指摘された「教育目標の達成度合いを学生自身が認識できる」ことを目指して、学科の教育目標別科目系統図を作成して、「学生ガイドブック」に掲載して配布した。</li> </ul>
<p>③毎年度海外語学研修や国内留学などの多様な方法で学校の枠を超えた学生の交流活動を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協定を結んでいるニュージーランド国ワイカト工科大学へ、毎年8月下旬から約3週間にわたる語学研修に学生が参加した。</li> <li>・高専機構が協定を結んでいるシンガポールのポリテクニクとの交流活動にも積極的に取り組んだ。テマセク・ポリテクから3カ月間の研修生を受け入れたり、本校からも「高専生のための英語キャンプ」や「国際プログラミングコンテスト」へ参加やあるいは短期留学したりと、交流活動が盛んになりつつある。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国地区高専学生国際交流支援事業（津山高専主管）における国際交流研究発表会に本校学生も参加し、マレーシアあるいは中国の大連市で研究発表した。</li> <li>・高専機構主催の海外インターンシップへも専攻科生が参加した。</li> </ul>
<p>④特色ある教育方法の取り組みを促進するため、優れた教育実践例（FD活動など）をとりまとめ、ホームページに掲載する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優れた教育実践例はあるが、ウェブサイトへの掲載はまだ実施されていない。</li> </ul>
<p>⑤学校教育法第123条において準用する第109条第1項に規定する教育研究の状況についての自己点検・評価、及び同条第2項に基づく文部科学大臣の認証を受けた者による評価など多角的な評価への取り組みによって教育の質の保証がなされるように、評価結果の検討や改善に取り組む。（自己点検・評価委員会）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H25年度は高等専門学校機関別認証評価を受審し、「高等専門学校設置基準をはじめ関係法令に適合し、大学評価・学位授与機構が定める高等専門学校評価基準を満たしている」との認証評価結果（案）が得られた。</li> <li>・年度末には外部評価委員会を開催し、本校の教育研究活動について貴重な意見をいただいている。</li> <li>・教育改善アンケートを本科卒業生と専攻科修了生に2月に実施、また本科卒業生の学習到達度アンケートを3月に実施した。アンケート結果は、自己点検・評価委員会で検討するとともに、学校協議会および学科長・センター長会議でも報告し、各学科での検討を要請している。また、アンケートの集計結果は学内ウェブサイトにて公開している。</li> <li>・開講中の授業に対して「Weekly授業アンケート」を実施し、授業改善に役立てている。</li> <li>・教員に対する「公開授業」や保護者に対する「授業参観」を毎年開催し、アンケートの集計結果や記述された内容は学内の教員用サーバ上で閲覧できるようにしている。公開授業実施教員は、参観した教員から提出される「参観報告書」の意見を参考に、授業改善を含む「実施報告書」を提出し、サーバ上で公開している。</li> <li>・松江高専の一年間の教育活動年報である「Annual Report」を毎年発行し、活動を振り返るとともに、改善に努めている。</li> </ul>
<p>⑥7割以上の学生が卒業までにインターンシップに参加できるよう、産業界等との連携を組織的に推進するとともに、地域産業界との連携によるカリキュラム・教材の開発など共同教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年生において「校外実習」及び「地域インターンシップ」が教育課程に組み込まれている。実習先は企業・官公庁・研究所・大学で、本校と地域産業界との連携組織「（一社）松江テクノフォーラム」の会員企業などへは特に受け入れを依頼して</li> </ul>

<p>に向けた実施体制の整備を図る。</p>	<p>いる。「地域インターンシップ」は校外実習先を出身県内での職場に限定して、故郷で働く意義も理解する機会を提供している。学生は受入れ先の情報を学内ウェブで閲覧できる。参加割合は過去5年平均で約80%であり、目標を達成している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生を対象とした「情報セキュリティ」では、講師を地元の情報セキュリティ会社から派遣していただいている。</li> <li>・4年生を対象とした「地域社会と産業」では本校教員の他、地域や産業界で活躍中の大学・企業・行政の関係者がオムニバス形式で講義を行っている。</li> <li>・5年生を対象とした「技術者倫理」では本校の教員の他、島根県技術士会に依頼した5名の技術士が実例を交えた講義を1回ずつ行っている。</li> </ul>
<p>⑦企業の退職技術者など、知識・技術をもった意欲ある企業人材を活用した教育体制の構築を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2名の民間企業経験者（機械系と電子・情報系）の経験を活かし、実践的な「ものづくり」教育を行うことができた。また、企業経験者と本校若手技術職員のローテーションにより、先端加工機を用いた人材育成事業の支援や演習メニューの作成ができた。</li> </ul>
<p>⑧県内の大学と教員の研修，教育課程の改善，高等専門学校卒業生の継続教育などの分野で，有機的な連携を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育研究集会や研修については，高専機構関連の他高専との連携による様々な事業には積極的に取組んだが，県内大学との有機的な連携をする計画の立案にまでは至らなかった。</li> <li>・学生支援については，島根学生相談研究会を通じて県内大学と連携を図った。</li> </ul>
<p>⑨インターネットなどを活用した e-ラーニングの取り組みを充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「英語学習用教材」や本校教員も参加して作成した「学習到達度試験 e-ラーニング教材」，「携帯端末教材」による自己学習を勧めた。</li> <li>・外部の e-ラーニングで開講されている科目を履修できるように調整し，H24 年度から学生に周知し，受講可能な環境を整えた。H25 年度後期からは豊橋技術科学大学提供の e-ラーニング科目を学生が受講している。</li> </ul>

**【評価】**

A

**【評価内容と今後の課題】**

教員・技術職員の研修や、JABEE、自己点検・評価によって教育の質の向上を図るシステムが機能しており、学生に海外語学研修、インターンシップ参加を促すシステムもできている。産業界との連携や企業人材の活用などもなされており、達成状況はほぼ十分であるといえる。

今後は、こうしたさまざまな取り組みを途切れることなく継続していくことが求められる。また、県内の大学等との連携に関しては、引き続き検討をしていくことが望まれる。

1-5. 学生支援・生活支援	
[計画]	
<p>①中学校卒業直後の学生を受け入れ、かつ、相当数の学生が寄宿舎生活を送っている特性を踏まえ、メンタルヘルスを含めた学生支援・生活支援の充実のための講習会を実施する。(学生委員会・学生相談室)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校精神科医によるメンタルヘルス研修会を実施している。</li> <li>・個別支援委員会および個別支援WGの立ち上げ、学生生活や学習に「困り感」を抱える学生のサポート体制を整えた。教員の意識や動きにも改善が見られる。学校と保護者との連携が大切である。</li> <li>・年に数回、保護者面談(主に1～3年)を実施し、情報共有を図っている。</li> <li>・「中国地区8高専連携事業：発達障害に関わる特別支援教育体制の整備」をH23・H24年度において本校が中心となり実施した。この成果は、最終報告会でも全国高専に広く発信できた。今後は、培った知識と教育スキルを学生支援に十分に活用して、さらに充実した学生支援ができるように努める。</li> </ul>
<p>②施設整備委員会と協力して図書館の充実や寄宿舎の改修などの計画的な整備を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館(昭和48年竣工)の経年による老朽化に対して、利用者の多い閲覧室の床カーペットの張替えを行い学習環境の改善を図った。(H23)</li> <li>・寄宿舎1号館から6号館の全居室にエアコンを設置し、冷暖房が使用できるように整備した。</li> <li>・寄宿舎3号館・5号館の改修を行い居住環境の改善を図った。外部建具をペアガラスに改修し冷暖房効率を改善し、併せて実施した屋上防水の改修においても遮熱シートを採用し室内温熱環境の改善を図った。</li> <li>・防犯カメラの増設等によりセキュリティの向上を図った。</li> <li>・寄宿舎1号館を移転新築し女子寮(定員58名)として運用を始めた。</li> <li>・建築時期の比較的新しい旧女子寮を男子寮に改修し、1年生の居館として居住環境の改善を図った。</li> </ul>
<p>③各種奨学金制度、授業料減免など学生支援に係る情報の提供体制を充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奨学金および授業料免除に関する情報は、校内電子掲示板、校内掲示板、3年以下はクラス掲示板及び担任により情報提供を行った。</li> <li>・前期授業料免除の情報については、前年度末の成績通知票の封筒に同封して郵送し、保護者へも文書で周知した。</li> </ul>



④学生の適性或希望に応じた進路選択を支援するため、企業情報、就職・進学情報などの提供体制や相談体制を充実させる。

- ・H25年度より低学年から5年間一貫したキャリア教育を支援するための「キャリア支援室」を設置した。
- ・学科および学年会において、企業関係者や大学関係者による就職や進学の講演会、卒業生によるOB講演会などを実施した。
- ・3年生を対象にジョブカフェしまねのキャリアアドバイザーによる就職応援セミナーを実施した。
- ・4年生を対象に（一社）松江テクノフォーラム主催で、県内企業多数の参加を得て、企業説明会と相談会を実施した。
- ・5年生と専攻科2年生を対象に就職内定者セミナーを開催した。これは就職に向けての心構えの説明や就職前の不安等を払拭することを目的としている。
- ・校内に常設の進路学習相談室では、本校学習相談員教員と専攻科学生が毎日1名ずつ、進路相談や学習相談を受け付けている。
- ・対人コミュニケーションに不安を抱えている学生に対して、外部講師を招き「コミュニケーションスキルセミナー」を開催して就職活動を支援している。

<専攻科>

- ・各専攻に副専攻科長を配置し、副専攻科長を中心として各専攻に所属する学生の進路選択についてきめ細かく指導している。
- ・月例で開催される専攻科委員会では、毎回進路状況を一覧表で配布し、出身学科の専攻科生の進路状況を各専攻科委員が把握できるようにしている。
- ・進学については、早稲田大学・九州大学など6校程度の大学院が本校で進路説明会を開催している。

[評価]

A

[評価内容と今後の課題]

発達障害等、困難を抱える学生への支援体制が整備され、他高専との連携もはかられた。またキャリア支援についても体制の整備が進み、活発な活動が行われた。総じて手厚い支援がなされており、目標を達成できていると評価できる。今後はこうした支援を途切れることなく継続していくことが望まれる。図書館については、バリアフリー化を含め、さらなる改善・改修が望まれる。

1-6. 教育環境の整備・活用	
[計画]	
①施設マネジメントを継続して実施し、施設利用率の向上を図るとともに、施設・設備のきめ細やかなメンテナンス実施に向けて予算獲得に努力する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 寄宿舍の居住環境整備のため、平成22年度営繕事業として全居室のエアコン設置を実施した。</li> <li>・ 経年劣化した重油地下タンク 2 基の廃止手続きと廃止措置が完了した。</li> <li>・ 平成23年度は、供給電力において従来の校舎と寄宿舍に分割されていたものを統一し、デマンド制御を充実させた。</li> <li>・ 既存施設の有効活用と老朽化対策として、H24年度より実験施設として利用開始していた既存ボイラー棟の耐震改修等をH25年度に実施した。改修後は学内共用施設に用途変更し、有効活用する。</li> <li>・ ライフライン再生がH24年度補正予算で措置され、H25給水設備等が更新できた。</li> </ul>
②実験・実習や教育用の設備の更新、実習工場などの施設の改修のための予算獲得に積極的に取り組む。学生寮（特に1号館）の改修あるいは建て替えのための予算獲得に積極的に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高専機構本部に提出した中期目標期間（H22-H25）の年次設備整備マスタープランに従った要求のうち、毎年4～5件が採択され、設備の整備が進んだ。</li> <li>・ 営繕事業3年次計画で進めた寄宿舍5号館改修工事が完了した。</li> <li>・ H23年度補正予算による寄宿舍1号館の改築整備が完了した。</li> </ul>
③専門実習科目の指導に当たる全ての教員・技術職員が、安全管理のための講習をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次の事項についての講習会も実施した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水封式安全器の水量チェックとガス漏れチェックの手順</li> <li>・ 重油タンク漏洩対応手順書に基づく漏洩対策方法の確認</li> <li>・ 化学薬品、危険物、特殊ガスの異常時の対応手順</li> <li>・ 産業廃棄物の分類処理方法</li> </ul> </li> <li>・ 化学薬品についての講習会は毎年実施している。</li> </ul>

[評価]
A

[評価内容と今後の課題]
<p>寄宿舍1号館の建て替えや各号館の改修など、大きな事業が完了し、寮生の教育環境が改善された。ボイラー室の改修も25年度中に完了予定で、おおむね順調な達成状況であるといえる。今後はさらなる教育環境の整備と、光熱水量の一層の低減が望まれる。</p>

2. 研究	
[計画]	
①専攻科指導教員資格を維持するため、専門科目教員全員が中期計画期間内に1編以上の査読付き論文または書籍を執筆する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校教員が執筆した査読付き論文数または書籍数は下記の通りで、目標を達成している。</li> <li>平成21年度 査読付き論文：29編，著書：16冊</li> <li>平成22年度 査読付き論文：27編，著書：12冊</li> <li>平成23年度 査読付き論文：42編，著書：13冊</li> <li>平成24年度 査読付き論文：40編，著書：13冊</li> </ul>
②外部研究費獲得のため科研費に専門科目教員全員が毎年申請する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学研究費助成事業をはじめとした外部研究資金費獲得の準備のため、「シーズ発掘型研究」という学内での競争的資金獲得の取組を行っており、毎年度50件程度の応募の中から、審査に合格したものに経費を配分している。（各年度、総額約400～500万円）</li> <li>・科学研究費助成事業へは、毎年度、科研費受給中の教員及び技術職員を除いて、ほぼすべての教員及び技術職員が申請を行った。</li> <li>・毎年度10月に、科学研究費助成事業に関する学内説明会を開催し、事業の変更点等の説明、研究遂行における経費不正使用及び不正行為の防止について周知を行った。</li> </ul>
③科研費以外の外部資金獲得のために、特別事業推進委員会（委員長：学校長）を立ち上げ、どの事業に応募するかを決定する。応募する事業については特別事業推進室を設置し、チームで資金獲得を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科研費以外の外部資金獲得のため、特別事業推進委員会を設け、どの公募事業に応募するかを決定し、応募する公募事業については、特別事業推進室を設置しチームで資金獲得を図った。</li> <li>・公益財団法人等から公募案内のあった研究助成については、地域共同テクノセンターウェブサイトに掲載し周知した。</li> <li>・産学官連携コーディネーターと連携して、共同研究、受託研究、受託事業等の受入を促進している。</li> </ul>

[評価]

A

[評価内容と今後の課題]

査読付論文・書籍の執筆，科研費の申請，研究費の獲得状況を総括すると，達成状況は十分であるといえる。共同研究・受託研究等の外部資金も毎年ほぼ一定額を確保しており，今後もこの状況を維持していくことが望まれる。

<p>3. 社会との連携</p>	
<p>【計画】</p>	
<p>①地域共同テクノセンターなどの施設や設備の充実を計画的に推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域共同テクノセンターは50周年記念事業の一環として整備が進んでいる。</li> </ul>
<p>②教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果などの情報を印刷物、データベース、ホームページなど多様な媒体を用いて企業や地域社会に分かりやすく伝えられるよう広報体制を充実する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果などの情報を、技術シーズ集の活用、本校ウェブサイトへの掲載、地元テレビへの出演、地元新聞への寄稿等さまざまな媒体を用いて企業や地域社会にPRした。</li> </ul>
<p>③小・中学校に対する理科教育支援の機会を増大するよう努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学生を対象とした出張授業や学校開放事業（夏の工作教室・冬の工作教室）等を実施し、青少年の理科教育を支援している。</li> <li>・地元小学生の社会見学として本校見学の受入や、地域イベントにおけるロボット展示・実演を実施した。</li> <li>・外部団体から依頼された理工学系の地域イベントや講座等への参加・協力を行った。</li> <li>・神話の国シマネの縁結び（ENMSB）ネットワーク（平成22年度～平成24年度JST科学技術コミュニケーション推進事業（ネットワーク形成地域型）に採択）、及び大学教育推進プログラムを利用して、学外の大型施設で実施した「科学体験教室」には、毎回多数の地域住民の参加があり、アンケート調査により多くの参加者から「満足」との評価をいただいた。 この科学体験教室は平成23年度より、（一社）松江テクノフォーラムとも連携して実施している。</li> <li>・前述の大型イベントに加えて、神話の国シマネの縁結び（ENMSB）ネットワークでは県内の科学館などの施設と連携してイベント事業を推進した。</li> <li>・平成23年度には、宮城県と山梨県において、それぞれ約30名の参加者を対象に模型飛行機や電子回路の工作教室を実施した。</li> <li>・JST平成24年度科学技術コミュニケーション推進事業活動実施支援に採択され、5件、114名を対象に、「環境テクノロジー」をテーマとした体験授業を実施した。</li> </ul>

<p>④生涯学習機関として学校における各種講座の充実を図るとともに、満足度調査において多数の参加者から評価されるよう講座内容を支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成（シーケンス講座）推進室は、シーケンス制御技術に関する実習講座（入門編、タッチパネル編）を実施した。</li> <li>・人材育成（最先端加工）推進室では、先端加工技術の基礎的なものから実践的技術に関する実習講座（超入門講座、入門講座、応用講座、演習講座）及び見学会等を実施した。</li> <li>・人材育成（メカトロニクス講座）推進室では、マイコンなどの制御機器等に関する基本知識を習得できる「電子回路の基本知識講座」、センサによる制御を行う回路から電子回路の考え方をなぞることができる「電子回路考え方入門講座」を実施した。</li> <li>・ものづくり分野の人材育成「ものづくり若手技術者養成講座」推進室では、機械設計から電子制御までの一連のプロセスに関する講座を実施した。</li> <li>・中小企業庁ものづくり分野の人材育成「ものづくり若手技術者養成講座」推進室は、中小企業庁ものづくり分野の人材育成・確保事業【H22年度第2次募集】として、合計13回の講座を実施した。</li> <li>・人材育成（3次元CAD講座）推進室では、県内企業・各産業分野で利用率が高い3次元CADシステムを実際に操作し技術を学ぶ講座を実施した。</li> <li>・雲南市たたらの里山再生雇用創造推進協議会からの受託事業により、人材育成事業「CAD/CAMを用いた先端加工機演習」講座を開催した。</li> </ul>
<p>⑤同窓会組織との連携を継続的に維持する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校創立50周年(平成25年度)事業を実施する方向で検討し、同窓会との連携で計画する。</li> <li>2. 学校として同窓会の業務を補助する職員を確保すること、および学内ネットワークによる公的なメールアドレスを配付する等、同窓会との協力を図る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 松江工業高等専門学校創立50周年記念実行委員会（委員長：井上明校長）は、平成26年10月の高専祭で記念講演会、11月1日に記念式典・祝賀会を実施することを決定した。また、50周年記念テクノセンター（仮称、寄附者名のプレート設置）の整備、50周年記念ロゴマークの募集、50周年記念誌制作、学生向け記念コンペを行うことを決定した。現在、同窓会と連携して、募金活動を行っている。</li> <li>2. 学校・卒業生のネットネットワーク構築のためのデータベース作成等の同窓会事業、同窓会入会金の徴収等の同窓会会計業務、理事会の運営についての同窓会の事務は、非常勤事務員（2名）が担当した。</li> </ol>

平成 23 年 4 月に学校長を委員長とする「松江工業高等専門学校創立 50 周年記念実行委員会」を立ち上げ、後援会及び同窓会と連携して活動を開始した。

【評価】

S

【評価内容と今後の課題】

出前授業や人材育成事業などを通じて地域の小中学校や企業と緊密な連携を図っており、計画以上の実績を挙げているといえる。今後はこの状況を維持するとともに、創立50周年を控えて深まっている同窓会との連携を、人材活用や広報などさまざまな点で進めていくことが望まれる。

4. 国際交流	
[計画]	
①現在行われている海外との交流関係を維持するとともに、現在のプログラムを改良しつつ拡大する。また、インターンシップなどを推進することを目的として、必要であれば海外の教育機関との新しい関係構築にも取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュージーランドにあるワイカト工科大学と締結している学術交流協定を、平成 25 年 8 月に更新した。</li> <li>・毎年度 8 月下旬から 9 月中旬の約 3 週間、WINTEC 付属英語学校にて、語学研修を実施しており、研修後、本格的な留学を希望する学生もあり充実した研修となった。</li> <li>・シンガポールでの各研修や中国、タイなどでのシンポジウム等についても学生への周知に努めており、積極的に参加する意欲を持つ学生が増加している。今後さらにこういった機会を学生に多く提供できるように努力したい。</li> <li>・海外インターンシップへも継続して参加した。</li> </ul>
②留学生受入れ拡大に向けた環境整備について検討する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 22 年度より営繕事業として寄宿舎 5 号館 1 階の留学生居室の改修及び便所等水回りのリニューアルを実施した。</li> <li>・留学生交流研究協議会に留学生 WG 委員を派遣し、「留学生に対する教育支援について」意見交換や、情報収集を行った。</li> <li>・留学生用図書の実用として、留学生の要望を考慮して、新たに洋書の専門書や洋雑誌 (National Geographic と Reader' s Digest) を定期購読した。</li> <li>・平成 21 年度に寄宿舎における留学生の受け入れ定員の見直しを策定し、男 12 名女 8 名計 20 名に受け入れ可能数を拡大した。</li> <li>・上記を基に平成 22 年度、23 年度と営繕事業による年次計画整備で寄宿舎 5 号館の改修を実施した。主な整備内容は留学生居室の完全個室化、補食室の複数確保、老朽化した浴室の改修によりシャワールームを増設整備するなど居住環境の改善を図った。</li> <li>・留学生定員の受け入れ可能数の拡大に伴い、留学生居室のベッドの新規購入や老朽による更新及び洗濯機の更新を行い、居住環境の整備を図った。</li> </ul>
③留学生に対し、学校全体として学業面や生活面を支援する体制を整えると共に、相互交流を深める 催しや地域の歴史・文化へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生WG委員を中心として、学業面と生活面の両面からのバックアップ体制（試験後の定期的な面談、学業での補講実施など）を整え、留学生個々が直面している悩</li> </ul>



<p>の理解を深める見学・研修旅行などを毎年度提供する。</p>	<p>みや問題点の早期把握とその解決を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3, 4年次の留学生に対しては、同クラスの日本人学生を各留学生のチュータとして配備し、学習面から寮, 学校生活面まで、広くサポートする制度を運用している。</li> <li>・ 学期毎に教職員・チュータ学生・留学生との懇親会を実施して、相互理解を深めた。</li> <li>・ 島根県内の文化施設・名所旧跡を巡る研修旅行や冬季のスキー研修旅行などを実施し、地域の歴史・文化への理解を深める取り組みを行った。</li> <li>・ マレーシア政府派遣留学生に対して、「線形代数」が未履修であったため、編入後に特別補講という形で15コマ分の講義を実施し、基礎力向上を図った。</li> <li>・ 平成21年度に寄宿舎における留学生の受け入れ定員の見直しを策定し、男12名女8名計20名に受け入れ可能数を拡大した。</li> <li>・ 上記を基に平成22年度、23年度と営繕事業による年次計画整備で寄宿舎5号館の改修を実施した。主な整備内容は留学生居室の完全個室化、補食室の複数確保、老朽化した浴室の改修によりシャワールームを増設整備するなど居住環境の改善を図った。</li> </ul>
----------------------------------	--

<p>[評価]</p> <p>A</p>	<p>[評価内容と今後の課題]</p> <p>WINTECでの研修のほか、海外インターンシップ、海外からの留学生受入れ、外国での発表など活動は活発化しており、達成状況は十分であると考え。今後は、さらに増加すると予想される国際交流事業に携わる教職員を支援していく体制作りが求められると考える。</p>
----------------------	---

<b>5. 管理・運営</b>	
[計画]	
①学校教育法第120条第3項及び独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則第5条第2項の規定に基づき、本校の運営・校務等に関する重要事項は校長が決定する。決定に当たって、必要と認める場合には、運営組織規則で定める学校協議会、学務協議会、学科長・センター長会議又は各種委員会等を開催して、意見を聴取する。また、校長は必要に応じて学校運営上の重要事項について参考意見を聞くため校長諮問会議を招集する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校長のリーダーシップのもと、学校協議会・学務協議会、学科長・センター長会議、及び教員会議等を開催して、本校の運営・校務に関する重要事項を決定した。</li> </ul>
②事務職員や技術職員の能力の向上のため、必要に応じ国立大学や高等専門学校などが主催する研修や企業・地方自治体などにおける異業種体験的な研修などに職員を参加させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務職員及び技術職員について、国立大学や高等専門学校などが主催する研修や企業・地方自治体などにおける異業種体験的な研修に参加させた。</li> <li>・技術職員について、職業訓練指導員免許を取得させるため、「職業訓練指導員講習」に参加させた。</li> <li>・平成23年度には、(株)東京エレクトロンFEに教員を派遣し企業経験を積む機会とした。</li> </ul>
③事務職員については、国立大学との間や高等専門学校間などの積極的な人事交流を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島根大学や米子工業高等専門学校との間で積極的に人事交流を図った。</li> </ul>

[評価] A	<b>[評価内容と今後の課題]</b> 運営については校長、学校協議会、学務協議会をはじめ、各委員会が機能しており、事務職員・技術職員の研修・交流についても十分行われており、達成状況は十分であるといえる。今後もこうした状況を維持することが望まれる。
-----------	---